

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2018』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5→学年暦
 - ・ p. 14～17→通信教育部カレンダー
 - ・ p. 47～50→社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 51～53→精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

8 / 9～9 / 24 の追加・変更点

- 8月Web科目修了試験 試験日追加・締切日等変更（詳細 p. 19参照）
8 / 16（申込締切 8 / 10）を追加 ほか
- 「特講（防災士研修講座）」申込締切日変更（詳細 p. 34参照）
第1次申込締切日→8 / 23に 第2次申込締切日→9 / 7に

夏期スクーリング受講にあたっての留意点

『With』131号 p. 4 をご参照ください。

——— 地震および豪雨にて被災された皆様へ ———

大阪府北部の地震、および平成30年7月豪雨にて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

災害救助法が適用される地域にお住まいで、教材・副教材に損傷を受けた方には無料再交付をいたします。その他、被災により配慮を希望される場合は通信教育部へご相談ください。

充実した社会福祉援助技術実習を

教員 MESSAGE

教授 阿部 一彦

これから実習に入る皆さんへ

現場での実習は皆さんがこれまで学んできた価値・技術・知識などに関する理論や考えてきたことについて実践体験を通して統合していく大事な過程です。これまでの学びを整理するとともに社会福祉士の倫理綱領と行動規範を何度も読んで準備を重ねましょう。現場で実習する内容のポイントは倫理綱領と行動規範を読み込むことによって明確になってきます。

将来、皆さんが社会福祉専門職としてかかわる領域について考えてみると、社会の変化に応じて人々や家族を取り巻く生活課題は複合化しており、とても幅広くかかわる必要があります。ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点が重要になります。

しかし、皆さんが24日間で実践体験できることは限られます。この限られた期間に行うことを明確にする過程が実習計画案の作成過程です。

実習先についてよく調べ、24日間どのような実習を行うのかについて、具体的な計画案を作成します。このとき大事なことは、自分の関心をもとに明確なイメージをもち「具体的達成課題（学びたいこと）」、「学ぶための具体的な方法」を整理して記すことです。現場実習のイメージをつくるために計画案を作成するといった方が適切かもしれません。そのためには、実習先の意義・役割、運営理念、利用者の方々の特性、職員の配置状況などについて十分に調べる必要があります。そして、実習先への事前訪問時に計画案をもとに実習指導者の方と打ち合わせて、実習スケジュールを具体的にします。計画案は施設・機関での具体的な実習スケジュールを作成する場合のツール、自分の関心を実習指導者に伝えるための大事な

ツールなのです。

実習中の皆さんへ

十分な準備を重ねて実習に入ったにもかかわらず、準備が足りなかったことに気づく場面が多くあります。その時には真摯に反省するとともに、実践体験を通して足りない部分、学ぶべき課題が見つかったと肯定的に捉える姿勢も大切です。「スポンジ」をイメージしてはどうでしょうか。吸収すべき課題が見つかったのです。それらの課題に取り組むことは自分自身の向上につながることです。自分に足りないことを明確にして、それらに取り組んで一つひとつ自分の力を高めていくのです。

皆さんが将来、社会福祉の専門職としてかかわる利用者一人ひとりは多様な価値観を持ち、多様な生活上の困難に直面する方々です。社会自体も大幅に変動し、更に複雑化していくことを考えますと、将来出会うすべてのケースの支援方法について、実習期間内で学ぶことは不可能です。このように考えますと、今後、柔軟な応用力が求められます。柔軟な応用力は、「常に考える姿勢」や「考察する方法」を身につけ、「考える力」を培うことであると思います。特別な困難に直面している利用者には時間的ゆとりのない傾向が多いので、社会福祉にかかわる専門職は立ち止まってじっくり考えるゆとりはありません。走りながら考え続けなければならないのが社会福祉の専門職です。皆さんには、走りながら考えていくだけの柔軟性を伴った応用力、すなわち、「考える力」を培って、磨き続けてほしいと思います。

そのようなことから、実習では一日一日の実践体験についてしっかり振り返り、次のより良い実践のために必要なことを考察し、次につなげる姿勢を身につける必要があります。その具体的な実践の場の一つが実習記録の作成です。実践体験や現在の知識や技術の足りなさを丁寧に振り返り、

考察を深め、次のより良い支援につなげるために、それらの過程を後で読んで思い返すことができるような実習記録を作成しましょう。ただし、あまり時間をかけることはできません。短い時間で整理し、考察する力を身につけるためにも実習記録作成が大事になります。記録作成は自分自身の力の向上につながる過程です。

現場実習はまた、自分らしいかかわりのスタイルを身につける第一歩でもあります。利用者の方々が多様であるとともに、かかわる皆さん自身も多様です。他の人と比較することなく、自分らしいかかわりのスタイルをもとに専門性を磨き続けるための大事な第一歩が現場での実習です。実習現場の専門職の方々のかかわるスタイルを観察させていただくとともに、自分自身についても客観的に観察し、自分らしさについて考えてみましょう。

実習を終了された皆さんへ

実習終了後の振り返りは、実習課題の達成度を確認するとともに今後の学べき課題を明確化する過程です。この作業を丹念に行うことは自分自身の力の向上に確実に結びつきます。しっかり取り組みましょう。

実習終了後に学生の皆さんとお話しすると、実習を行って将来の専門性について具体的にイメージできるようになったとか、社会福祉領域で働きたい気持ちがさらに大きくなったという声を聴きます。とても良いことです。

24日間の現場実習は皆さんに働きかけて、皆さん自身がもっている社会福祉領域にかかわる関心を整理し、皆さんらしい専門性を引き出すためのきっかけをつくってくれます。その時、私たち教員もその一役を担うことができれば幸いです。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●禅のこころ 齊藤 仙邦

- ・禅のこころを学ぶにあたり、基本となることを調べるために図書館で本を借りました。いろいろ調べようと思っても難しいので、絵図の入っている本で少しだけ学習しました。このスクーリングがなければ学ぶ機会がなかったと、スクーリングにも本にも感謝しています。
- ・1コマ1コマ坐禅を行うことで、体で覚えることができた。毎回、坐禅に入るときのこころ、気持ちが変化し、更に深く学びたいと思った。

●基礎演習 門脇 佳代子

- ・グループワークを通してレジュメを作成し発表するという体験は、自宅学習では得られないものであり、対話することの大切さを学んだ気がします。
- ・最初はみなさんと打ち解けることができるか不安だったし緊張もしていたのですが、気さくな人ばかりでした。みなさん課題に熱心に取り組んでおり、私も同じ気持ちで一緒にがんばることができ嬉しかったです。障がい者や、生活することが困難な人などを支えていくには、その方たちに寄り添えるような思いやりの心と、専門的な知識が必要と再確認することができました。

●人間と教育 教育の歴史と思想 寺下 明

- ・教育の歴史について、古代ギリシャ時代のものが、現代の私たちの学びの基盤やルーツであったことを知り、とても興味深いものでした。海外とはちがった日本独自の教育方針もあり、時代が変わる中で教育も同じように変わっていくのだと改めて実感しました。
- ・教育の歴史について、今まで知ろうとしていなかった、戦後から自分の年代に至るまでの学習要領の変化について知ることができてよかったと感じた。教育はグローバル化の現代で、どのように変化をとげていくのかに関心をもちました。

●知的障害者福祉論 赤塚 俊治

- ・先生の魂のこもった授業は、障害者施設で働く私にとって心に響き、考えさせられた内容だった。知能指数で「ヒト」を区分することは間違いであり、その人の良いところを見る必要がある。これからも同じ「ヒト」として接していきたい。
- ・先生の熱意に引き込まれていく授業でした。知的障害をもつ方の生の声を聞かせて頂けたらもっと学びが深まったと思います。これからは、障害をもつ方とかかわりを積極的にもとうと考えました。